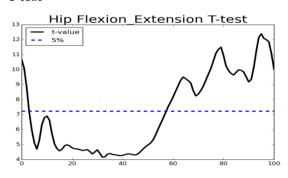
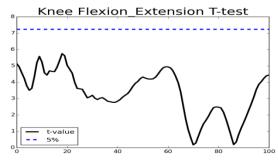
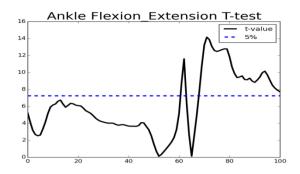


## • T-test







はじめのグラフは、縦軸が角度、横軸が時間(フレーム)の踵がついてから踵がつくまでの1歩分のデータである.

Hip Flexion/Extension では通常歩行において角度 の最小値はマイナスの値になっている. しかし、内股 歩行ではマイナスの値にはなっていない.

Ttest のグラフは、連続体の検定の結果を表している ものである. T値(直線)が5%水準の値(点線)より大 きくなっているところで有意差がみられる.

グラフの結果より、Hip(腰)、Ankle(足首)の関節で有意差がみられる. Knee に関しては有意差が見られない.

有意差のみられる Hip と Knee では両方とも、遊脚期において有意差が見られ、立脚期では見られない.

## 7. 今後の展望

Adduction/Abduction と Longitudinal/Rotation の解析も行っていく.

内股歩行の被験者のデータを集め、通常の歩行のデータと比較を行う.

詳しい関節の動きなども調べて,力学的解析が行えるようにしていきたい.

## 8. 参考文献

- (1) 古澤, 原田, 原部: 女子大学生における内股歩行の 客観と主観による出現頻度の違い.
- (2) ゴードン・ロバートソンほか: 身体運動のバイオメカニクス研究法, 大修館, (2008)
- (3) アーカイブティックス株式会社 : Visual 3D http://archivetips.com/visual3d/visual3d-japanesema nual/visual3d-workflow